

南河内中学校区小中一貫教育だより

平成 30(2018)年 11 月 下野市教育委員会

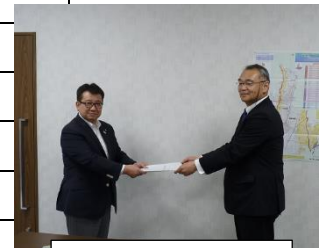
平成 34 (2022) 年度の開校を目指す『南河内中学校区義務教育学校』の整備について、平成 30(2018)年 5 月に『下野市南河内中学校区義務教育学校整備基本計画』(以下、整備基本計画)を策定し、現在、地域とともにある学校の具現化に向け基本設計等の業務を進めています。9 月には整備基本計画の地域・保護者説明会、11 月には南河内中学校の生徒、同中学校区小中学校の教職員、地域・保護者によるワークショップ(小グループによる議論と意見集約)を各々開催しました。皆さまから頂きました貴重なご意見等は、今後の業務に反映できるか検討し、対応していきます。

■ 南河内中学校区義務教育学校導入における主な経過

年度	月	協議会・説明会など
25	11月	下野市学校適正配置基本計画策定
28	7月	南河内中学校区小中一貫教育推進協議会発足
	12月	地域保護者説明会(4会場)
	2月	南河内中学校区小中一貫教育推進における提言(第一次提言)
	2月	下野市総合教育会議(義務教育学校導入)
29	4月	地域説明会(南河内公民館)
	8月	南河内中学校区小中一貫教育推進における提言(第二次提言)
	8月	下野市総合教育会議(義務教育学校基本構想)
	11月	地域保護者説明会(南河内中学校)
30	4月	保護者説明会(小中学校)
	5月	南河内中学校区小中一貫教育推進における提言(第三次提言)
	5月	下野市総合教育会議(整備基本計画)
	9月	地域保護者説明会(3会場)
	11月	ワークショップ開催(中学校生徒、地域・保護者、教職員)



小中一貫教育推進協議会



広瀬市長へ提言



中学生のワークショップ

■ 地域・保護者説明会を開催しました

平成 30(2018)年 5 月の整備基本計画策定に伴い、義務教育学校の整備方針や基本目標、今後のスケジュール等についてご報告するため、説明会を開催しました。

ご参加いただきました地域・保護者、関係者の皆さま、貴重なご意見等、ありがとうございました。

(裏面に質疑応答内容)

期 日	会 場	参加者数
9月18日	薬師寺コミセン	20名
9月19日	吉田西小学校	21名
9月26日	南河内東公民館	27名



薬師寺コミュニティセンター



南河内東公民館



吉田西小学校

※各日午後6時30分開会

『南河内中学校区小中一貫教育の推進経過』等について、詳しくは市HPで検索

小中一貫教育

説明会での主な質疑応答内容は次のとおりです。

項目	質問等	回答
義務教育学校の制度	○なぜ南河内中学校区で義務教育学校なのか。考えられるデメリットは。	○小中一貫教育は全市的な取組である。義務教育学校の目的は適正規模で切磋琢磨しながら成長していく場の設定、9年間をとおして学習面等でのつまづきへの対応、小学校から中学校へ移行するギャップを軽減すること等が挙げられる。南河内中学校区は適正規模（各学年3学級程度）であるが、他の中学校区では義務教育学校導入は人数が多すぎる。 ○遠距離通学者が出てくるので、登下校の不安が多くなると考えられる。その点はスクールバスの運行を検討している。授業時間が小・中学校で違うので、日課等に配慮する。 ○小・中学生は体格的な差もあり怪我等のトラブルの心配もあるため、低学年用のグラウンドや第二体育館等での配慮を検討していく。
スクールバス	○どこで乗車するのか。 ○3小学校の児童全員が乗車し通学するのか。距離で区分するのか。ルール作りを慎重に願う。先進地も参考にしている。 ○中学生乗車について、考え方をリセットして、安全面を考慮し、保護者等の意見を聴取して再検討はできないか。	○運行は、今後皆さんと相談しながら進めていく。バスが停まれる場所を前提に、意見を伺いながら停留所を設定していく。 ○運行のルールづくりはこれから行う。現在、国分寺西小の再編に伴い、運行ルートや停留所、安全面等、地域や保護者の方と協議を重ねている。義務教育学校でも通学ルート・距離が変わるが、安全面、負担面等を考慮し保護者や学校と協議を重ねていく。 ○乗車の対象は、小学生までと考えているが、保護者等と協議し決めていく。なお、危険箇所については、地域のスクールガードボランティア、リーダーによる点検パトロールの実施、防犯灯の設置を担当部署にお願いするなど、今後も通学路の安全対策は十分に図っていく。
施設	○学童施設は設置されるのか。 ○給食は、現在はランチルームで食べているが、義務教育学校ではどうなるのか。 ○具体的な校舎等のレイアウトはどうなっているのか。	○学童施設の所管課であるこども福祉課と調整中である。現中学校敷地内に設置するか未定だが、設置することを視野に入れて検討していく。 ○現在、吉田東小と吉田西小はランチルームで給食を食べている。今後は700名規模となるため一堂で給食を食べることは難しいが、役割意識をもたせるための異年齢交流活動において給食は絶好の機会である。多目的活用のオープンスペースを設置し給食も含め異学年の交流を考えている。 ○現在、基本設計業務において検討を行っている状況であり、具体的な配置等は決まっていない。整備基本計画書には想定される配置3案を載せているが、各案メリット、デメリットがあるため精査し、よりよい形を検討していく。
敷地	○現敷地内での計画か、拡張も検討なのか。広い学校敷地を確保してほしい。	○現敷地内で検討していたが、十分な広さの学校敷地を確保するため、整備基本計画書では、西側敷地を拡張することを想定している。今後、地権者との交渉も必要となる。
学習・活動、行事	○現中学校の部活動が少ないが、今後見直し等があるのか。 ○習熟度とあるが、コース別のクラス分けを行うのか。 ○運動会等行事は、どうなるのか。 ○各学校の特色ある行事はなくなってしまうのか。	○要望の部活動をすべて設置することはできないが、子ども、教員数が増えるため、ニーズや状況を踏まえ新たな部の設置を検討する。 ○義務教育学校は、各学年2～3クラスとなる。クラス替えができることはメリットである。内容と教科に応じて習熟度別学習を取り入れる。 ○異学年交流により行事を実施することは、学びも多くととても良い経験となる。運動会は異学年交流の絶好の機会である。 ○4小中学校の行事を集約することは困難である。各学校の伝統的な行事は残していく方向で検討していく。

■ワークショップを開催しました

11月6～7日、南河内中学校を会場としてワークショップを開催しました。中学生は1学年生徒全員、教職員は関係する4つの小中学校より35名、地域・保護者の方は41名に参加いただきました。各々2時間程度『魅力的な学校をつくるために、どんなものがあるといいと思いますか？』をテーマに、参加者の自由意見を基に議論し、理想的な学校のイメージをグループごとに取りまとめ発表していただきました。また、関係小学校の児童には、『未来の学校について』をテーマに絵を募集しました。



地域・保護者による議論、意見集約